



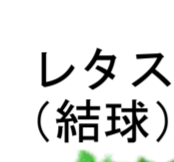
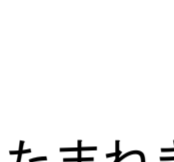
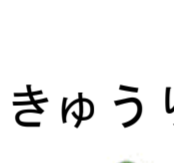
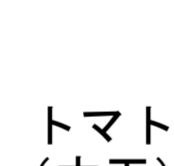
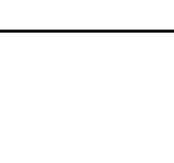
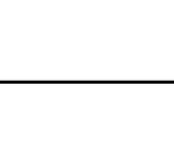
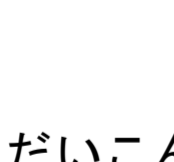
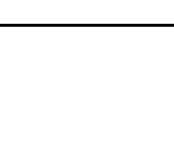


野菜の需給・価格動向レポート(平成26年12月1日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	10月の価格情報		11月の価格情報			12月 平年価格	生育及び価格の12月の見通し			
	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価格	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格						
		下旬		上旬	中旬					
葉 茎 菜	キャベツ 	74.19	50	66.30	50	56	66.3	・入荷見込量：12,200(100) ・主産地：愛知(50)、千葉(30)、神奈川(9)、茨城(6)	・愛知産は、曇天が続いていたことで根の張りが弱く、病害の発生もあり生育はあまり良いことから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。千葉産は、病害虫の発生もなく、生育は順調で引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が平年並みと見込まれるもの、愛知産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、価格は、平年並み若しくは平年をやや上回って推移する見込み。	
		88.91	55	69.92	50	55	69.92	・入荷見込量：3,700t(104) ・主産地：愛知(59)、茨城(9)		
	ねぎ (関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ) 	218.22	184	218.22	182	192	218.22	・入荷見込数量：6,530(103) ・主産地：千葉(23)、埼玉(20)、茨城(17)、群馬(13)、栃木(8)、輸入(2)	・千葉産は、天候に恵まれ生育は順調で、引き続き平年並み若しくは平年をやや上回った出荷の見込み。茨城県産は作付面積の増加に加え、天候に恵まれ生育は順調であるため、引き続き平年並み若しくは平年よりやや多めの出荷の見込み。埼玉県産は、現在平年並みの出荷であるが、生育は順調であり、今後は平年よりやや多めの出荷の見込み。	
		444.77	498	444.77	421	397	444.77	・入荷見込数量：220t(105) ・主産地：奈良(17)、徳島(14)、群馬(12)、高知(12)、三重(11)、香川(10)、大阪(8)	・千葉産、茨城産及び埼玉産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、価格は、平年を下回って推移する見込み。	
	はくさい 	54.1	40	36.65	35	32	36.65	・入荷見込量：15,940t(105) ・主産地：茨城(92)	・茨城産は、気温の低下により一部のほ場でみられた病害も落ち着き生育は順調であり、引き続き平年並みの出荷となる見込み。 ・茨城産がこれまでと同程度の出荷が見込まれることから、平年を下回って推移している価格は引き続き平年を下回って推移する見込み。	
		69.44	44	53.29	40	45	53.29	・入荷見込量5,500t(100) ・主産地：茨城(23)、和歌山(13)、熊本(13)、愛知(11)、宮崎(10)、岡山(8)、大分(6)		
	ほうれんそう 	350.1	468	350.10	405	377	350.1	・入荷見込量：1,480t(100) ・主産地：群馬(41)、千葉(17)、茨城(16)、埼玉(15)	・群馬産は、最近の曇天と気温低下に加え、2月の雪害の影響も残ることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、病害虫の発生も少なく生育は順調で品質も良好で、引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉県産は、生育は順調で、今後も引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		419.76	534	419.76	447	433	419.76	・入荷見込量：620t(116) ・主産地：徳島(43)、福岡(27)、群馬(15)	・千葉産及び埼玉産の出荷が平年並みと見込まれるもの、群馬産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
	レタス (結球) 	158.27	93	136.79	94	95	233.85	・入荷見込量：7,000t(100) ・主産地：静岡(27)、茨城(17)、兵庫(14)、香川(10)、千葉(5)、福岡(5)	・静岡産は、台風の影響や最近の気温低下に伴い、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。兵庫産は、天候に恵まれ病害虫の発生もなく生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、出荷の終盤で切り上がりつつある産地もあり、今後は出荷量は減少するもの、平年並みの出荷の見込み。	
		152.57	104	147.25	115	110	226.75	・入荷見込量：1,180t(115) ・主産地：兵庫(54)、徳島(19)、香川(10)	・茨城産及び兵庫産の出荷が平年並みと見込まれるもの、静岡産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在価格は上昇基調ではあるものの、12月以降は平年の価格水準が上がる時期となることもあり、平年並み若しくは平年をやや下回って推移する見込み。	
	たまねぎ 	76.15	72	76.15	72	72	76.15	・入荷見込量：10,960t(110) ・主産地：北海道(88)、輸入(5)	・北海道産は、現在は選別・調製を終えて倉庫に保管され、計画的な出荷が行われており、今後も引き続き平年をやや下回る出荷の見込み。 ・北海道産の計画的な出荷が見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き概ね平年並みに推移する見込み。	
		76.15	75	76.15	74	76	76.15	・入荷見込量：3,900t(103) ・主産地：北海道(67)、兵庫(29)		
果 菜	きゅうり 	262.75	313	262.75	318	370	370.98	・入荷見込量：4,700t(100) ・主産地：宮崎(41)、千葉(19)、高知(17)、埼玉(11)	・宮崎産は、10月の台風の影響で定植が遅れたことで、平年より少なめの出荷であるが、今後は、生育の遅れの回復に伴い、平年並みの出荷の見込み。千葉産は越冬物の出荷が始まり、現在は平年よりやや少なめであるが、生育は順調であり今後は平年並みの出荷の見込み。高知産は、天候に恵まれ病害虫の発生もないことから、生育は順調で引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		284.72	309	284.72	303	353	350.33	・入荷見込量：1,050t(94) ・主産地：宮崎(50)、高知(25)、徳島(10)	・宮崎産、千葉産及び埼玉産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は、12月以降平年の価格水準が上がる時期となることもあり、平年並みに推移する見込み。	
	トマト (大玉) 	315.83	293	315.83	295	292	332.6	・入荷見込量：4,630t(102) ・主産地：熊本(44)、愛知(21)、千葉(9)、静岡(5)	・熊本産は、生育は概ね順調であるが、着果にバラツキがあることや小玉傾向であるため平年よりやや少なめの出荷の見込み。愛知産は、曇天の影響により花数不足や着果不良で平年より少なめの出荷の見込み。千葉産は、抑制物はほぼ終了し越冬物のみとなるため出荷量は減少するが、生育は順調であり、平年並み若しくは平年よりやや多めの出荷の見込み。	
		337.88	320	337.88	310	305	311.06	・入荷見込量：970t(97) ・主産地：熊本(72)、愛知(10)、徳島(6)	・千葉産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれるもの、熊本産、愛知産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、価格は12月以降平年の価格水準が上がる時期となることもあり、平年並み若しくは平年をやや下回って推移する見込み。	
	なす 	301.00	266	301.00	278	316	389.03	・入荷見込量：1,650t(100) ・主産地：高知(61)、福岡(20)、佐賀(4)	・高知産は、天候に恵まれ着果もよく、病害の発生もないことから生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。福岡産は、定植後の天候に恵まれ病害虫の発生もなく、生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		263.21	281	263.21	310	359	397.74	・入荷見込量：330t(99) ・主産地：高知(37)、熊本(26)、福岡(21)、岡山(7)	・高知産及び福岡産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は、12月以降平年の価格水準が上がる時期となることもあり、平年並みに推移する見込み。	
	ピーマン 	263.58	296	344.39	337	296	344.39	・入荷見込量：1,530(100) ・主産地：宮崎(40)、茨城(32)、高知(15)、鹿児島(12)	・茨城産は、天候が良好で生育は順調であるが、燃油高騰の影響から作付面積が減少しており、引き続き平年をやや下回る出荷の見込み。宮崎産は、天候に恵まれ生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。	
		282.16	277	353.61	308	270	353.61	・入荷見込量：300t(89) ・主産地：宮崎(64)、高知(23)、鹿児島(10)	・茨城産及び宮崎産の出荷が平年をやや下回る若しくは平年並みと見込まれることから、平年を下回っている価格は、平年並みに近づく見込み。	
	根 菜	だいこん 	64.33	59	64.33	50	49	64.33	・入荷見込量：14,490t(105) ・主産地：千葉(48)、神奈川(42)	・神奈川産は、天候に恵まれ病害虫の発生もないことから、生育は順調で引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、台風18号の被害を受けた一部のほ場で生育の遅れが見られるが、生育は概ね順調であり、今後は平年並みの出荷の見込み。
			76.48	72	76.48	63	60	76.48	・入荷見込量：3,800t(101) ・主産地：石川(14)、長崎(14)、和歌山(12)、鹿児島(10)、千葉(9)、徳島(8)	・千葉産及び神奈川産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を下回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		にんじん 	123.08	75	100.82	74	84	100.82	・入荷見込量：8,980t(105) ・主産地：千葉(80)、埼玉(7)、茨城(4)、輸入(1)	・千葉産は、一部の地域で日照不足や乾燥による影響から生育に遅れが見られるが、生育は概ね順調であり、平年並みの出荷の見込み。埼玉県産は適度な降雨もあり生育は順調であることに加え、作付面積もやや増加しているため、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。
	123.11		72	104.49	75	81	104.49	・入荷見込量：2,300t(107) ・主産地：長崎(56)、鹿児島(16)、鳥取(13)、千葉(7)	・千葉産及び埼玉産の出荷が平年並み若しくは平年よりやや多めと見込まれることから、平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。	

種類	10月の価格情報			11月の価格情報			12月 平年価格	生育及び価格の12月の見通し
	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブ ロック旬別平均販売価額			
		下旬	上旬		中旬			
いも	200.88	236	200.88	222	216	200.88	・入荷見込量：1,940t (105) ・主産地：埼玉 (59)、千葉 (17)、栃木 (5)、輸入 (2)	・埼玉産は、生育は順調で大玉傾向となっており、引き続き平年より多めの出荷の見込み。千葉産は、ほ場により生育にバラツキが見られ、大玉の発生が少ないことから引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、埼玉産の出荷が平年より多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
	207.20	270	207.20	252	265	207.20	・入荷見込量：404t (-) ・主産地：愛媛 (42)、福井 (19)、宮崎 (11)、熊本 (9)、輸入 (8)、大分 (4)	
	88.17	83	88.17	81	81	88.17	・入荷見込量：8,430 (103) ・主産地：北海道 (87)	・北海道産は、収穫は終了。産地によりばらつきはあるものの引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・北海道産の出荷が平年よりやや多めの出荷が見込まれることから、引き続き価格は、平年をやや下回って推移する見込み。
88.17	78	88.17	76	77	88.17	・入荷見込量：3,500t (98) ・主産地：北海道 (87)、長崎 (13)		

注：1 平年価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均で(消費税は除く。)保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。さといもの大玉は前年実績。
5 主産地は、東京都及び大阪府中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日より、平均価格と旬別平均販売価額を一部の品目につき細分化し、ねぎについてはねぎ(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、10月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、5,455gで前年比104%、購入金額は、1,973円で前年比102%となった。
また、小売物価統計によると、11月のキャベツの小売価格は、122円で過去5か年平均比75%、レタスは、321円で同76%となり、キャベツ、レタスともに過去5か年平均を大幅に下回った。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額(1人当たりの購入数量と購入金額)

年	過去5か年平均		平成25年		平成26年		前年比	前年比
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)		
1月	4,252	1,595	4,243	1,669	4,379	1,03	1,775	106
2月	4,463	1,624	4,553	1,652	4,646	102	1,742	105
3月	4,836	1,772	4,961	1,769	4,958	100	1,878	106
4月	4,747	1,838	5,019	1,809	4,871	97	1,887	104
5月	5,103	1,902	5,257	1,861	5,146	98	1,993	107
6月	5,092	1,885	5,249	1,897	4,998	95	1,976	104
7月	4,423	1,712	4,456	1,783	4,542	102	1,770	99
8月	4,324	1,713	4,422	1,741	4,275	97	1,846	106
9月	4,768	1,803	4,577	1,863	4,745	104	2,035	109
10月	5,238	1,861	5,225	1,932	5,455	104	1,973	102
11月	4,993	1,671	4,852	1,806	0	0	0	0
12月	5,142	1,882	5,152	2,093	0	0	0	0

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」
注：過去5か年平均は、平成21～25年の平均。

主要野菜の小売価格(東京都区部)

	(単位：円/kg)					
	キャベツ			レタス		
	過去5か年平均	平成26年	5か年比(%)	過去5か年平均	平成26年	
1月	198	267	135	673	684	102
2月	211	234	111	605	578	95
3月	200	200	100	498	459	92
4月	248	206	83	469	381	81
5月	169	175	104	371	351	95
6月	137	147	108	317	321	101
7月	153	171	112	322	358	111
8月	140	151	108	415	446	107
9月	149	228	153	506	871	172
10月	158	209	132	449	378	84
11月	162	122	75	421	321	76
12月	162	0	0	521	0	0

資料：総務省「小売物価統計調査報告」
注：1 過去5か年平均は、平成21～25年の平均。
2 平成26年11月の値は、11月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

10月の野菜の輸入を貿易統計で見ると、生鮮野菜は、前年同月比91%の6万5千トン、加工野菜は同88%の13万6千トン、野菜全体は、同89%の20万2千トンとなった。このうち中国産野菜合計は93%の11万9千トンとなった。
生鮮野菜、加工野菜ともに前年を下回ったことから、野菜全体においても前年をかなり大きく上回った。

野菜の輸入数量

区分	平成24年		平成25年		平成26年1～10月		平成26年10月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同期比	前年同月比		
生鮮野菜	946,931	103	854,057	90	763,603	111	65,098	91
加工野菜	1,909,671	106	1,854,295	97	1,509,360	98	136,459	88
野菜合計	2,856,601	105	2,708,352	95	2,272,963	102	201,557	89
うち中国産野菜合計	1,458,418	103	1,415,901	97	1,172,227	103	119,040	93
中国産シェア	51		52		52		59	

資料：ベジ探(原資料)財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入数量

品目	輸入先	平成25年10月(A)	平成26年10月(B)	(B)/(A)
		たまねぎ	合計	37,550
	中国	29,289	22,958	78
	米国	8,251	3,316	40
にんじん	合計	7,198	6,924	96
	中国	7,113	6,887	97
	米国	35	36	104
ねぎ	合計	5,006	4,949	99
	中国	4,989	4,947	99

資料：農林水産省「植物防疫統計」注：平成26年10月は速報値。

4 トピック — 野菜価格の高騰・下落局面における価格形成の特徴 —

野菜の店頭での小売価格は、卸売市場等からの調達コスト、販売管理費、店側の販売戦略等様々な要素が加味されて形成されるが、小売価格と卸売価格の関係は、特に価格の高騰・下落局面ではその特徴が現れやすくなるとみられる。

今年は、8月中旬以降から9月上旬までを中心に価格が高騰した後大幅に下落したが、その過程では小売価格の下落幅が小さいのではないかと指摘も一部でみられた。これに関しては、小売業者は、仕入れ後も常に一定の流通在庫があること、広告(チラシ)掲載品の小売価格は実際の仕入れに先立ち、前倒しで設定されること等から、卸売価格の小売価格への波及には一定のタイムラグがあると言われている。

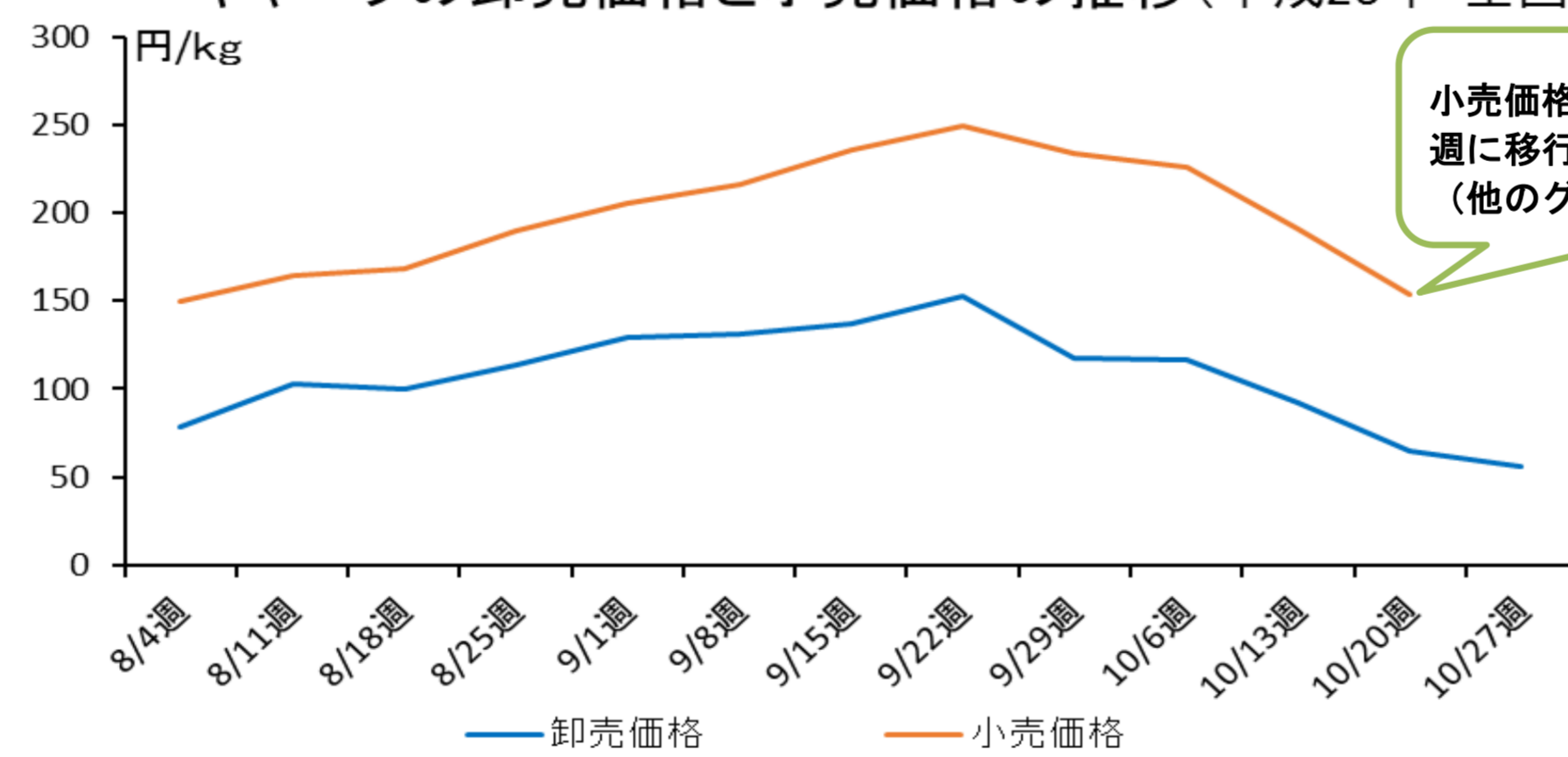
実際に今夏に価格が高騰・下落した4品目(トマト、キャベツ、きゅうり、レタス)について、小売価格のグラフをそれぞれ1週間前倒しさせて、卸売価格のグラフを重ねると、ほぼ連動した動きとなっており、小売価格形成の連動性がみてとれる。

また、キャベツ、レタスの価格高騰時は、卸売価格に比して小売価格の上昇度合いがやや大きいが、これは1個売りでは売価が高くなることもあり、カット販売が増えたことも影響(小ロット化に伴うkg当たり価格の上昇)しているとみられる。

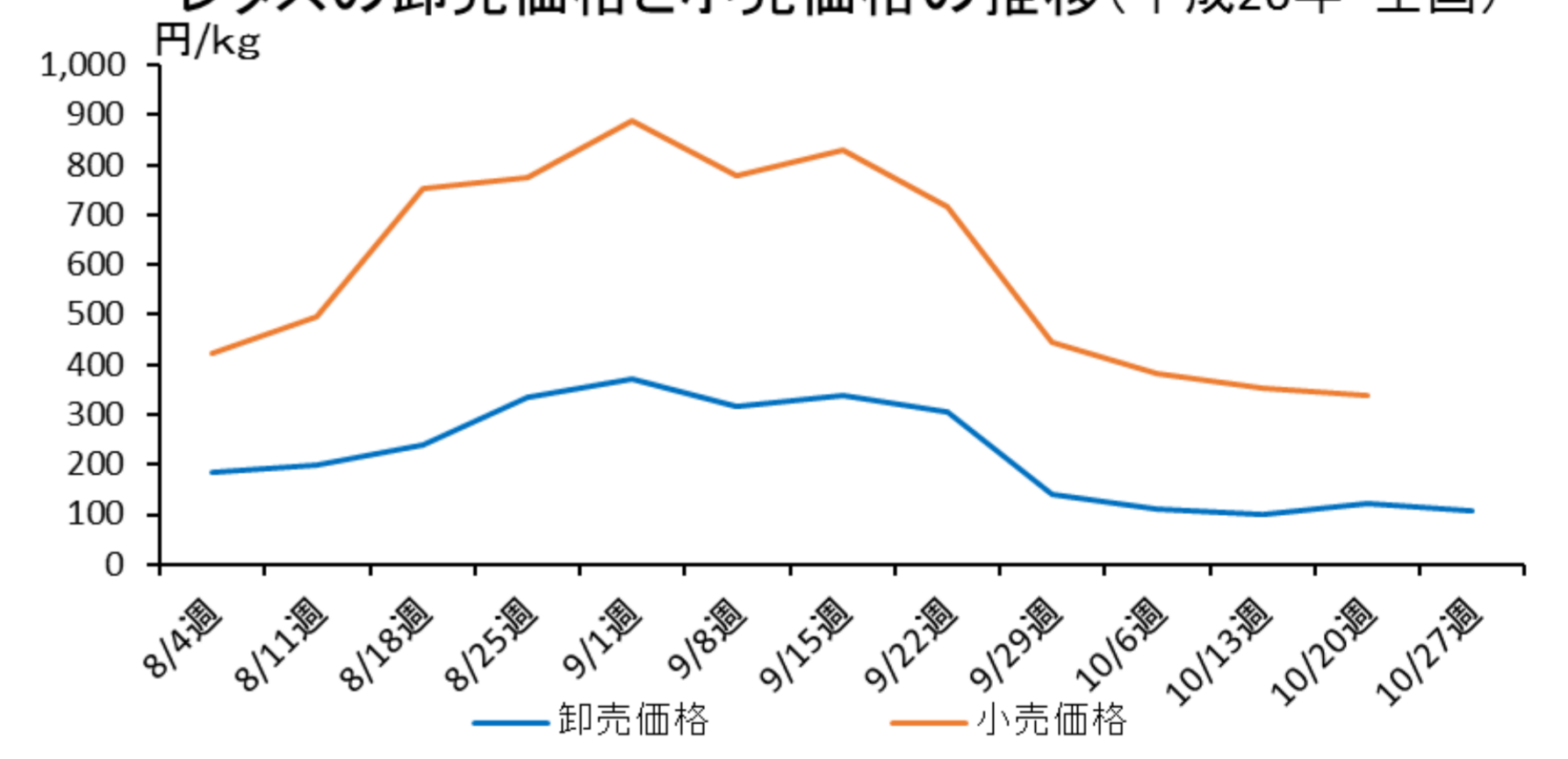
当機構の小売価格調査(毎月第2金曜日に全国9都市で実施：1都市10店舗の調査)でも、価格が高騰した9月にはカット販売の割合が高くなる傾向がみられた。

このように、卸売価格と小売価格の関係は価格の高騰・下落局面でも一定の連動性がみられるが、著しい価格の高騰と下落は、消費者、生産者、流通・実需者等に様々な影響をもたらすことから、引き続き関係者が協力した需給安定の取組の推進が求められている。

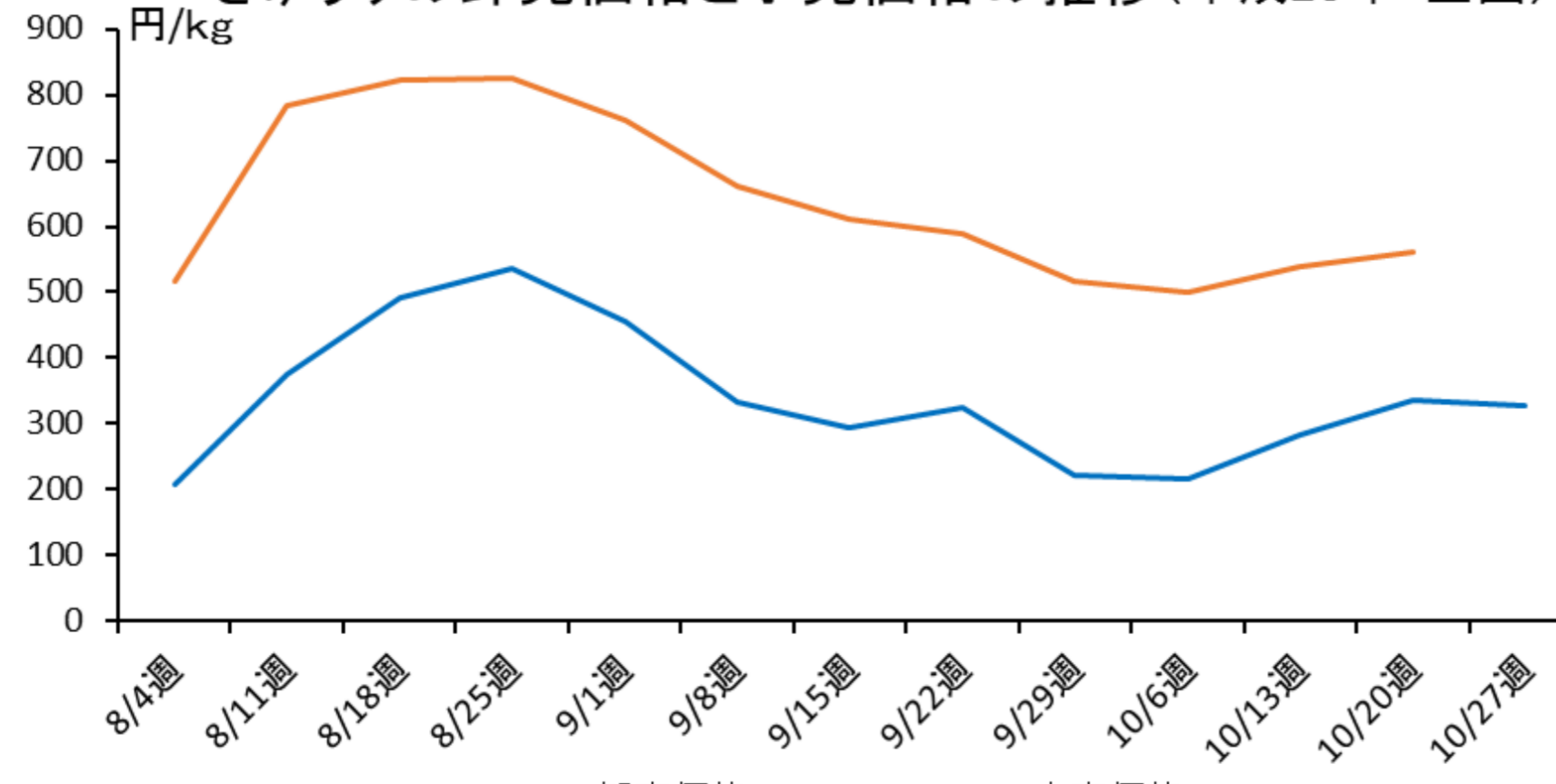
キャベツの卸売価格と小売価格の推移(平成26年・全国)



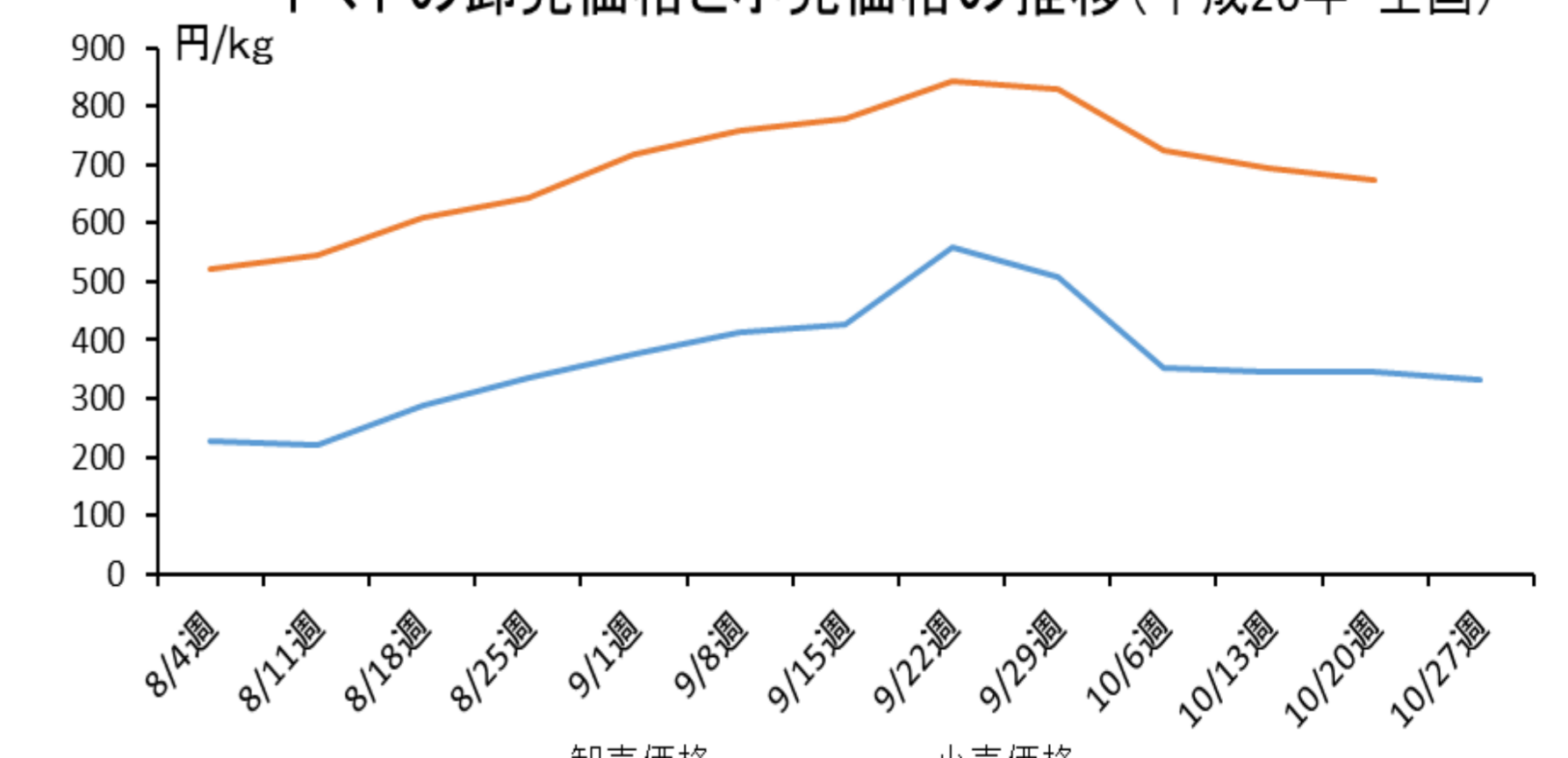
レタスの卸売価格と小売価格の推移(平成26年・全国)



きゅうりの卸売価格と小売価格の推移(平成26年・全国)



トマトの卸売価格と小売価格の推移(平成26年・全国)



資料：農水省「野菜小売価格緊急調査」、「青果物日別取扱高統計結果」
注：小売価格は、各都道府県10店舗の量販店等(全国470店舗)の調査結果であり、グラフは翌週の価格を前週に移行させて掲載している。
卸売価格は、主要14都市19市場の価格である。

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 前川、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。